☆二月一日「思想と信教の自由を守る」

日本国憲法が示す、自由の保障に反する「建国記念の日」

◆二月一日は「建国記念の日」と政府は定めています。この日はかつて、神話に基づいて、最初の天皇の神武天皇が即位をした「紀元節」とされてきました。政府は敗戦後、この日を「建国記念の日」とし、「日本の建国は天皇の即位の日。天皇の日本支配が確立した日だ」という神話を国民に思い起こさせ、その日を祝う様にと国民に示そうとします。しかしこれは、私たちの国を形作る日本国憲法に示された私たちの自由を保障する理念に反することです。

◆日本国憲法は第一九条で、私たちの思想及び良心の自由を保障し、第二〇条で信教の自由（宗教の自由）を保障しています。これら内心の自由をふまえて、第二一条で、集会や結社、言論・出版、等の「表現の自由」の保障、第二二条で居住や職業選択の自由、といった外的な自由を保障しています。そして第二三条において「学問の自由」を保障しています。この憲法によって日本の法律は方向付けられ、政府はその憲法・法律に基づいて政治を執り行います。国民の基本的人権としての自由を尊重することは政府の義務であり、それを侵すことは許されません。

日本学術会議会員任命拒否問題に見る、自由の侵害

◆日本国憲法における私たちの自由の保障は、国民が政府からの自由の侵害に対抗できるようにするためにあります。この「建国記念の日」の制定をはじめ、政府は、かつて今も、国民の自由を奪う政策を打ち出し続けています。一つの具体例として、昨年一〇月一日、菅義偉首相は、日本学術会議が新たな会員として推薦された一〇五人のうち六人の任命を拒否しました。日本学術会議は法律によって設置されその会員は、学術会議が選考・推薦し、その推薦に「基づいて」首相が任命すると定められています。「基づいて」とは、原則として推薦通りに任命する、ということです。しかしその理由も明らかにしないまま、任命拒否がなされ、政府の恣意的な人事介入が行われました。これは政府が、憲法の保障する「学問の自由」を侵害していることに他なりません。

◆ 私たちの自由のため、日本国憲法を守ろう！

皆で「自由獲得の努力」を！

◆私たちは二月一日を「思想と信教の自由を守る」その日として憶えて、憲法に定められた基本的人権を守る戦い、自由を守る戦いを主張します。政府による私たちの自由の侵害の問題は、今後さらに強まるでしょう。憲法は私たちの自由を守る力です。そして第九七条で言う通り「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」であることを憶え、この憲法の心を引き継がなければなりません。今の、私たち国民の生活一つひとつにおける「自由獲得の努力」が、将来における私たちの「自由」を物語るものになると信じ、望みを持って、皆で力を合わせ、共に戦いましょう。

二〇二二年二月一四日（日）護憲平和行進（通算六四八回目）

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一―一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・午後一時・浜松市役所正面玄関集合

日本国憲法 第三章 国民の権利及び自由

第十九条 思想及び信教の自由は、これを侵してはならない。

第二十条 信教の自由は何人に対してもこれを保障する。

第二十三条 学問の自由は、これを保障する。